

## 第4回千倉地区学校再編検討委員会 会議録

日時 平成24年10月18日(木)  
午後7時から午後9時まで  
会場 千倉保健センター3階機能訓練室  
出席委員 21名  
欠席 鈴木委員、佐藤委員、庄司委員  
傍聴人 4名

### 1. 開会

### 2. 委員長挨拶

お忙しいところ、毎回お集まりいただきありがとうございます。1回目・2回目は委員会の考え方を皆さんの地元へ持って行っていただいて、それについて3回目の時は皆さんの御意見を出し合うということで時を過ごしました。その中で健田小学校は、まだ説明会が終わっていないということでしたので、本日発表をしていただくと。その後は、学校再編の方向性を定めるべく、検討委員会としての考え方を確認したいと思います。これは前から何度か出てきておりますが、今現在のことではなくて、10年後、20年後に子どもの減少が見えてまいりまして、千倉地区の小学校・幼稚園、そして保育所で子供たちが教育を受ける上で良い方向を見つけ出していかなければならないと思っています。それには皆様方のお知恵やあるいは御協力をいただかないと方向性が出てこないと思いますが、本日も活発な御意見をいただいて、確認をしていきたいと考えております。よろしく願います。

### 3. 教育長挨拶

協議を重ねておりますけれども、提案したものについてはもう一回、整理した形でお話ししたいと思います。千倉地区だけではなくて、南房総市全体、国全体で子供の数が減っておりまして、私ども団塊の世代の時を考えますと、10分の1になってきています。ですから、この10分の1の子供の数しかないということが、現実問題として私の方もなかなか理解が出来ないところですが、現実としてはそれだけ少なくなっているということで、当地区の再編ということでは大きく三つの柱で提案しております。一つは委員長からありましたように、平成30年度には七浦小で49人、忽戸小で35人、朝夷小で85人、健田小で163人になるということが現実の数として出ております。全部合わせても332人ということで。私ども経験から言いますと、やはり単学級よりも学年複数学級の方が教育の効果が上がるということで、20年前、30年前ですか、私も現在の南房総市内で学級担任等しておりましたが、その時に千倉の4小学校というのは、いろんな面で勢いがあったかと思います。それぞれの小学校が2学級以上あって、しかも、4小学校で

また競い合うというような、子供だけではなくて教員の方も競い合う、切磋琢磨する、そういう環境があったかと思います。私ども、その頃をもう一度ということは出来ませんが、今置かれた現実を考えますと、千倉の現在の4小学校を一つにしますと学年複数学級になるということで子供のみならず教師も切磋琢磨していく中で教育が展開出来る、そのような考えを一つ持っております。10年後、20年後、あるいは30年後を見据えますと、小学校を1校にしていくことが一番よろしいということをもまず先に考えています。あとは差し迫って重要な課題としましては、七浦小学校、忽戸小学校が学年10人以下になってくるという極めて厳しい状況がありますので、これに対して、即、対応していかなくてはいけないということが課題の二つ目と考えております。三つ目としましては、今年の3.11で津波等への対応を考えていかざるを得なくなってきました。保育所が皆さん御存じのように極めて海拔が低いところにありますので、これを高いところに持って行く。その中で私ども南房総市全体で幼保一体の施設で0歳児からの子育てを支援していこうということを考えておりますので、保育所を単に高いところに移すのではなくて、幼保一体で0歳からの子育てサービスが展開出来るような施設に転換していきたい。これらの大きくお話ししました三つのことをトータルで考えております。まだ他には、当地区の現実的な問題があります。と言いますのは、千倉町時代に計画されましたが、現実的には南房総市になってから建てた健田小学校があります。これは立派な小学校施設ですので、これは何らかの形で生かしていく方法を考えなくてはいけないというような問題もあります。あと、当地区におきましては千倉中学校が建設後20年ほど経っているかと思っております。だいぶ傷んできておりますので、これも先ほど申し上げました10年後、20年後を考えますと、大規模な改修を私ども検討していかなくてはいけない時期になっているかなと思っております。何回も協議していただいているわけですが、当面の現実的な課題ともう一つは10年後、20年後を見据えた考えですか、そういったものをぜひ踏まえて、また今日も率直な御意見をいただければと思っております。よろしくお願ひします。

#### 4. 報告

事務局 次第の4の報告として、前回の第3回検討委員会の内容について報告させていただきます。第3回の学校再編検討委員会を平成24年8月31日に行い、この時の出席委員は23名となっております。議題の1号として「千倉地区の幼稚園及び小中学校再編案について」、七浦幼小、忽戸幼小、朝夷幼小で説明会が終わっておりますので、その後のアンケート調査等の結果を含めそれぞれ状況等を報告していただきました。

まず、七浦幼小では、統合は1回で意見がまとまり、幼稚園については七浦小へ持って来れないか。という意見が挙がっているとの報告でした。次に朝夷幼小では、2段階での統合について反対意見が多く、平成28年度の健田小との統合をやめ、2校並立で学校を存続していく、また幼保一体施設については、それぞれに付属させるという意見が多かったとのことでした。忽戸幼小につい

でも朝夷幼小と同じ意見となっております。

ここで、委員さんから「1校が良いか、2校が良いかのアンケートを取らせてくれないか」という意見が保護者の方から出ているとのお話がありました。事務局の見解として、アンケート調査については、単位PTAが意見集約の一つとして行うことは考えられると思いますが、提案がある度に持ち帰ってアンケート調査を行うことは、この会議の在り方としては馴染まないこと、また2校が良いとか1校が良いと言っても理由はそれぞれ違うことも考えられることなどから、アンケート調査で決めるのではなく、この検討委員会で検討・協議していただき、一定方向の結論を出していただきたいとお話しをさせていただきました。

これまで、平成28年度に統一の小学校をつくること、その次の平成29年度に幼保が一緒になる方向で検討してきたところであり、今後も引き続き、海抜等を考慮した幼保一体施設の位置、複式学級を含め少人数学級の解消、既存施設の有効活用や本市の財政状況など、いろいろな視点から10年後あるいは20年後を見据えた中で検討していくこととなっております。

報告は以上となりますが、委員の皆様には前回の会議録を事前に送付させていただいておりますので、本日の会議にて御承認をいただき、市のホームページに会議録を掲載したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

(質疑等なし)

## 5. 議事

事務局 議長委任「傍聴人の入場よろしいでしょうか。」

委員長 許可します。

(傍聴人入場)

それでは、本日の出席委員数は21人です。過半数に達しておりますので、会議は成立いたします。第1号「学校再編の方向性について」を議題といたします。事務局から何か説明はありますか。

事務局 前回、七浦・忽戸・朝夷各幼小PTA主催により、千倉地区再編案の内容について保護者説明会を行い意見交換した後に、役員さん方が保護者の考え方を取りまとめた内容について報告していただきました。健田幼小につきましては、次の週に開催予定となっておりますので、保護者の方々の意見が確認出来ているものと思いますので、発言をいただければと存じます。よろしく願いいたします。

委員 9月3日に本校の体育館で行いました。当日は悪天候のため、本校の児童の数

に比べると出席人数は非常に少なかったですが、30名程度の出席をいただきました。その中で、教育委員会から提案があった「千倉地区の幼稚園及び小中学校再編案」についてということで、夏休み前にお子さんを通じて、保護者に配付はしてあります。それをもって会議を2時間程度行いました。内容について一番出たのは東日本大震災を受けてのことだと思いますが、海拔の問題が非常に多く出ました。教育委員会から説明で七浦小が15m、忽戸小が14m、朝夷小が15.6m、千倉中が20.0m、健田小が24.5mということで、この中では健田小は海拔がかなり高いところに立地しているんですけど、その中で幼稚園について「どうして朝夷なのか。」という意見がかなり出ました。健田の保護者の意見からすると、8.9m海拔が低いところに移るということに危険性を感じている方が結構いたように思います。主にはそういうことで、保護者の方からいろいろな「どうしてですか。」というような意見はいっぱい挙がりました。また、説明会のアンケートにもそのようなことが書いてあります。大変申し上げづらいんですが、残念ながら、健田幼小の説明会においては平行線で、時間が来たから終わりというような感じだったと思います。今より8.9m低いところに移らなければならない保護者の気持ちをもう少しくまく説得するようなものがあれば、ちょっとは違ったかなと思いましたが、そういう感じで平行線で終了しました。以上です。

- 委員長 確認ですが、健田小へ4校が一つになって行くことについては問題はないですか。
- 委員 そうですね。そこには（問題は）なかったですね。
- 委員長 幼稚園が朝夷に行くことについての問題があったということですね。
- 委員 そうですね。
- 委員長 健田小のPTAの関係で何か質問がありましたら。無ければ、少し先へ進めていきたいと思いますが。前回の御意見の中で「やれるものとやれないもの」ということが出て参りました。しかし、28年度に千倉地区の小学校は健田小学校を使用して1校になるという、この件について、もう一遍、ここで確認をして、いろいろな意見を精査したいと思っておりますが、まず、その辺から発言をお願い出来たらと思います。その当時はそう言ったけれども、考えてみたらこうだったというようなことも含めまして、御意見をいただければと思います。再三、この件については、確認こそしていませんが、そういう方向が基本ですよという話はずっとしてきましたけれども。
- 委員 実は千倉地区の4小学校1中学校のPTAで編成する千倉町PTA連絡協議会（以下「千倉町P連」）というのが旧町時代からありまして、千倉町の中で起こることに対して協議する場があります。今年はこの統合の話について、今まで3回検討してきました。ここの委員会で行われたことをもう一度各小学校に

持ち帰って、その意見を千倉町P連で揉んで、この次はどうしようかと検討しました。その中で健田の意見も他の小学校の意見も全て聞いています。このまま反対だけ言ってもしょうがない、私たちとして、千倉町P連として、案をつくる方が良いのではないかということで、実は案をつくって、今日はお持ちしていますが、資料として提出してもよろしいでしょうか。

委員長           では配っていただいて。

委員           実は、今までここで話しをしたとおり、教育委員会の案は各小学校では、なかなか納得が出来ない状況の中で、どうしたらいいかということで、案としてお持ちしました。これを説明させていただきますと、教育委員会の案では平成26年に3小学校・3幼稚園が統合するという案ですが、この状況で26年に果たして出来るのかと非常に不安です。そこでもう一年延ばして、統合は27年にしたらどうか。そして、教育委員会の案だと28年に小学校を1校にするということで、やはり2年後に二段階というのは非常に難しいということで、私たちの案はそのまま2校で行こうということを考えました。幼稚園については、健田はそのまま幼稚園を残し、3校統合した時に、そこに幼稚園を付けたらどうかということ。小学校・幼稚園の場所については朝夷が良いのか、忽戸が良いのか、七浦が良いのかは今の段階では決めていません。それは、やはり交通の便だったり、立地条件を実際に見て歩いて決めたいかがかと。また、小学校にそのまま幼稚園を付けるのではなくて、例えば、朝夷小に小学校が来て、忽戸小か七浦小のどちらかに幼稚園ということも有りではないのかなということも話し合いました。そして、37年までそのまま、その後には再統合と書いてありますが、37年ぐらいになると、これは千倉町だけの問題ではなく、たぶん白浜も人数が少なくなるだろうと。そう考えると、これはもう一度、統合を考えなくてはいけないというところで、旧町村を越えて考えてはいいかがかという案です。そのために、平成32年頃にもう一度、こういう組織委員会をつくって、5年くらいの時間で皆さんで案を出し合って、スムーズに統合していくという案をこの図に書かさせていただきました。当然これは今の段階で、私たち、千倉町P連の一つの案として皆で考えた案です。当然これが良いとは思っていませんし、他にいろんな案があると思いますけども、まずはこれを皆さんに提案したいと思います。そして、この提案は教育委員会の案に対して、なかなか受け入れられないという現状からこういう案になりました。是非、皆さんに検討いただいて、いろいろと御意見をいただきたいというのが私たちの意見です。以上です。

委員長           「PTA連絡協議会」ですか。ということは、七浦、忽戸、朝夷、健田、皆、入っているということですね。

委員           はい。

- 委員長 P T A全体の意見のまとめですね。
- 委員 今回の段階での。当然、これに皆さんの御意見があるでしょうから、決定ではないですけど。
- 委員長 そういう案が出て参りましたが、この中から考えなければいけないこともあるように思えます。私の意見ですが、忽戸小は24年から複式は始まっていて、29年になると全校が複式になってしまうんですね。2校をつくるという案ですが、この地区に2校を置くということがどういうことかということも、我々も言ってきたことですけど、考えなければならぬ問題がある。そういうことも踏まえて、そういう意見だということで検討して、もう一遍、教育委員会から出ていることと関連しながら考えていってもらいたいと思います。特に、今まで委員長として見ていて、今までの考え方というと、P T Aの方々、学識者の方々、行政連絡員の方々、教育の現場にいらっしゃる校長先生方の意見も聞いてみたいと思いますし、また教育に携わっている人の考え方として、お伺いをしてみたいと思います。まず、複式の問題ですが、それは早く解決してやらないとその年の3年間の中で複式学級を過ぎさなくていけない。これでいいのかどうかという問題があると思います。それから二つの学校をつくるということも一つにするんだという審議があつて出た提案はそこには理由があると思います。その辺のことをもう一度、ここで検討しながら確認したいと思います。
- 教育長 質問ですが、いくつか聞きたいことがあります。27年度に3校統合をということですが、私どもの案は28年度で4校を1校にするということになるわけですが、もう一年待てば4校一緒に入れる状況が出来るわけですけど、あえて27年度で3校一緒にして、2校体制をつくるということは、この計画でいいますと、平成37年まで学年単学級の学校を二つつくってやっていくというのが基本的な考え方になるわけですよ。そういうことでよろしいのかどうか。
- 委員 その通りです。例えば、白浜小も2学級ではないことを考えるとそのまま1学級でも良いのかなと。決して、千倉だけの問題でなく、他の地区も同じことではないのかなと思います。そして、今言われた28年に1校になった時に幼保が朝夷に行ってしまう案について健田小では非常に反対が多い。そこを考えると教育委員会の案は難しいという話がありました。
- 教育長 千倉だけでなく、丸山・和田については通学時間、通学距離とか、そういったものが可能であるとすれば、学年2学級ということで、丸山・和田は合わせて学年2学級の学校をとということでまとまったわけですね。その前の富山とかは通学時間の関係で、やはり学年2学級は学年全部は出来ないという状況の中でやってきたわけです。千倉と丸山・和田については通学時間、通学距離が十分可能だということで、2学級を提案していますので、この点については、私どもとしては教育効果ということ考えた時には学年1クラスの学校二つよ

りは学年2クラスの小学校が出来ますので、そちらの方がよろしいのではないかとというのが私どもの基本的な考え方です。今のお話しは分かりましたので。

委員長 その辺のところは現場の校長先生等が少し発言をしていただければと思います。我々には見えないところがあるかと思えますし、教育上の上から発言していただければと、特に一つの問題は複式学級になるということ、それから単学年、要するに1学級と2学級の違い、メリット・デメリットみたいなことを聞かせていただければありがたいなと思えますが。校長先生よろしいですか。七浦小から教えていただければ大変ありがたい。

委員 現在、七浦小学校全校児童60名。学年平均10名。前々回の委員会からの説明もありましたが、来年度の2年生・3年生の複式学級が一つ出来ます。その次が、27年度に2年・3年・4年・5年で二つの複式をつくらなければいけなくなります。来年度は増置を活用して複式は解消出来ますが、27年度からは複式が一つ解消出来ない状態になってきます。人数が少ない中でメリット・デメリットはそれぞれ持っています。教師は子供一人一人に目が届くし、手をかける時間も長く取ることは出来ます。また、子供同士の関係、同じ学年の中でも、違う学年の中でも関係が深まり、良い子供たちの状態ではないかなと思います。ただ、人数が少ないために子供同士の磨き合い、学習での磨き合いというのが、どうしてもマイナス面が出てきます。いろいろな考え方に触れることも少ないですし、どうしても序列が固定化しがちです。また、集団スポーツとか音楽関係等も一つの学年では人数が少ないため難しくなってきます。その面でのデメリットということもあると思います。いろいろなことを考えると、学年20人から25人程度は1学級あった方がより教育効果が高いと私自身は考えます。ですから、統合ということは進めていく必要があると考えています。ただ統合した場合に問題になるのは、他の学校も同じだと思いますが、「おらが学校意識」といえば良いでしょうか。地元と学校との結びつきというのが弱くなるのかなということを考えます。通学距離・通学時間が長くなるのも統合した上でのデメリットになると思います。七浦小の職員からもありましたが、どうしても避けて欲しいことは子供たちが同じ小学校にいる時代に2回の統合は避けて欲しい。子供たちへの負担が大きい、ストレスが大きい、そういうことを考えると、同じ6年間の中で2回の統合は避けて欲しいというのが七浦小、私の考えです。以上です。

委員長 ありがとうございます。では忽戸小、お願いします。

委員 忽戸小全校児童53名で南房総市で一番小さな学校になりました。4月から小規模校の良いところを生かそうということで、職員一同、力を尽くしているところですが、「一人一人がヒーローになって主役になれる」それから、「小規模校ゆえの機動力」というのがありますので、それを生かしてやって行こうと

努力しています。小規模校の良さというのは、家族のようであったり、地域に根ざした教育が出来やすいとか、一人一人の子どもの個性を尊重した教育が出来るといようなことが良いところだと思います。少ないところの良さと限界を申し上げますと、まず学習面では漢字や計算の基礎的な学習に対しては、教師とすれば少ない方が確かに目は届きます。ただ一方で、専門的な言葉になりますが、問題解決的な学習というような子供同士が自分の考えを発表して、他人の意見を聞いて、さらに発展させて行くと、そういう根気や、思考力、判断力を養おうとした時には数が少ないというのは多様性が少なくなりますので、そういう面では確かに限界があります。その中で今、当校なりにやっています。体育面を考えますと陸上や水泳、個人競技の場合は、やはり個人に目が届きますので、効果は上がりやすい。ただ一方で、チームワークを必要とする、サッカーやバスケットボールというのは限界があります。1年生が女子2名、5年生が6名ですので、そういうところで限界というものを感じています。さらに行事。例えば、運動会。先ほども言いましたとおり「一人一人がヒーローになれる」。温かな交流もできますが、一方で大きなニーズによるダイナミックな活動の中での、子供同士が切磋琢磨して、相手から学んだり競争したりしてやって行く機会は少なくなってしまう。こういうことがございます。ですから統合ということが進んでいくことは私なりに理解しています。その状況の中でどうしているかという、本校の対策としては他校との交流。幼稚園は年少年長で9名の単学級です。他園との交流や、園外保育で地域に出て、地域の方々と交流する中でいろんな経験をさせる。また、1年生と5年生は、人数は少ないですが、1学期は七浦小と交流したり、5年生は館山小に行きまして、計算甲子園という250名ぐらいいる中で交流したり、そこで5年生と授業をやったり、これから、また2学期は別の小学校と交流してみて、その中で少しでも大人数の経験をさせて、そんなことで努力して、そんなことが私の願いでございます。

委員長

それでは朝夷小お願いします。

委員

朝夷小は児童数が113名。男子が54名で女子が59名という構成になっています。通常学級が6クラス、支援学級が2クラスとなっています。人数が多いところでは22人、少ないところでは15人。学習集団として見ると、目が届く人数であると思います。20人から25人という話が先ほどありましたが、ある程度、子供たちの中で切磋琢磨して学習することもできます。通常は学級単位として学習をしています。時に人数を補うため、また効率を上げるために低学年の合同体育だとか、中学年の合同体育だとかというような形で学習変化を高める工夫をしています。児童数に限って申し上げれば、これまでの経験の中で10人を割るような、10人に近いような人数になってくると、先ほどから話題になっていますけれども、子供同士の切磋琢磨という点では非常に

難しい状況になるかと認識しています。そういった点を補うために、例えば交流であるとか、合同学習とか、そういう形でより良い教育を何とか確保して行こうと取り組みをしているところです。いずれにしましても、私たち教職員は人数のこともそうですが、その学校の特色とか、地域の特色とかそういったものを全て含めて、その中で子供たちを伸ばしていく教育活動をするのが本筋だと思っていますし、役割を持っていると思います。先ほど、単学級のメリット・デメリットという話がありましたが、単学級である場合は、どうしても序列化、固定化した人間関係というのが生まれがちですので、その中での変化というところで課題があるかなということ。それから、この統合に関してですが、2回同じ在校中に統合を経験させるということについては、やはりどうかということ職員からも話題は出ております。以上です。

委員長  
委員

ありがとうございました。それでは健田小。

まず教育効果の面から言うと、すでに3人の校長先生がおっしゃいましたが、私がここで申し上げたいと思っていたのは、人数が少なくなって単学級、一つのグループになってしまうと人間関係の固定化と序列化が非常に心配されるということで、これが一番大きいと思い、お話ししようと思っていましたが、皆さん同じ意見でしたので、詳しくは申し上げません。現状の健田小学校を見てみますと千倉地区の中では一番人数が大きな学校となっていますが、全校児童数で205名ということですが、学年によって人数にバラつきがありまして、現在、三つの学年で2学級がつくれています。三つの学年はすでに1学級です。それで現在の幼稚園の年少が38名いますので、このまま入学してきてくれると1年生の段階では2学級つくれるかと思いますが、その辺りを境にして、健田小もそれ以降はずっと1学級の学校になってしまいます。そういうことを考えると、健田小学校でも全校が1学級の学年になるという日もそんなに遠くない状況です。そうすると、なんとか複数の学級、せめて2学級あると、集団の再編成をしたり、いろいろな人間関係をつくること出来るのではないかなというふうには思います。次に1クラスの人数ということでは、きちんとしたデータを基にした理論はないようですが、私の過去からの経験則ですと、現在は1学級40人ということで41人になると21人のクラスと20人のクラスの2つに分ける形になっています。私が就職した30年ぐらい前は45人学級ということで1クラス23人ぐらいだったんです。23人ぐらいの学級となると、普段、掃除をしたりとか、どこかへキャンプに行ったりとか子供たちのグループ活動をする時にだいたい生活の班というのは6人グループをつくります。そうすると24人だと4グループです。20人を割ってくると、3グループで18人になってきます。この辺が限界かなと。つまりグループごとに何かを競い合ったり、何か頑張るといようなことも、この辺の人数が限界かと思っています。

それから学習を進める時には学習班というものをつくりませんが、これは4人で組むことがよくあります。4つのグループをつくと16人です。そうすると学習班を活用した人数ということで考えても、16人ぐらいが集団での学習が組めるぎりぎりの数かなと。この辺、割り込んでくると、もうグループというよりも先ほども説明がありましたが、個別の、先生が一人で一人二人の生徒というような、どちらかというイメージとしては塾とかそういう感じのような指導に徐々に変えないと指導が出来ないという世界も生まれてきているのかなと思います。そういうことから、これは経験則で申し訳ありませんが、1学級が20人を超すくらいの子供が2学級くらいある学校はせめてつくってあげることによって子供たちが個人としても集団としても活力ある学校生活・学習生活が組めるようにしてあげたいというのが私個人として思っていることです。そういった中では今、教育委員会からの再編の案も出ていますし、今日新たな案も出されていますが、出来ればそういう形をつくってあげたい。今、最大人数の当校としても、もうそういう状況は出来なくなりつつあるという実態も再度繰り返させていただいて、以上でございます。

委員長 教育に携わっている方々の御意見として伺いました。そういうことを総合しながら検討委員会は進めなければならないかと思えます。先ほどの話に戻るところがあるかもしれませんが、10年後、10年経たなくても6・7年後にはそういうふうになってくるということで、一番の問題は七浦小と忽戸小については直面した事柄で、そこにいる子供たちのことをしっかり考えた上で、意見を出してもらいたいと思っていますが、どうでしょうか。その辺のところでは質問等がありましたら、どうぞ。

教育長 PTAが提案してくれた中身ですが、例えば保育所はどうするのか。幼保一体はどうするというのは出ていないですよ。これは皆さん方の考え方が、今、お話があった小学校は学年単学級の学校2校で千倉は行くんだと。先ほどは、「白浜小もそうだから」ということでしたが、隣の丸山・和田は2町で学年2学級の学校をつくらうとしているわけです。ですから、白浜小もそうだからということは根拠にはならないと思いますが、今、校長先生方がお話した学年単学級、あるいは学年複数学級の規模のお話がありましたけれど、そういったことを踏まえて、千倉の小学校は学年単学級の学校2校で行くということが確認されれば、私どもが幼保一体施設をどこにどうするかとか、そういうことは考えなくてはいけないと思いますが。そこまで皆さんに考えてとは言いませんけど、あとは私どもの課題になってくると思います。ただ、私どもの方は幼稚園と保育所の問題もいろいろ検討しました。先ほど大きな理由として、健田幼稚園が高いところから朝夷幼稚園の方に動くことは、なかなか難しいとお話があって、私どもも健田幼稚園で幼保一体施設を検討しました。ですが、皆さ

ん方もご存じだと思いますが、健田の敷地等の状況を考えると外に広げるのは難しい。かといって、健田の幼稚園の園庭も私ども課題にしていますが、木が一本もないんですよ。幼稚園の園庭自体も今でも手狭じゃないかと。そこに新たに保育所を持ってきて一緒にということになると、給食施設の問題もありますし、かなり厳しい状況かと。そういうことを考えますと、やはり健田幼稚園に今、通わせている親御さんにも御理解をいただいて、私どもの案である朝夷小学校を改修してということでの了解をいただきたいということで提案をしました。もう一点補足しますが、4つの幼小PTAに説明をしました。特に七浦幼小、忽戸幼小で御意見をいただきましたが、26年度に朝夷小に移って、28年度に健田小に移るという2回というのは非常に厳しいと。これは私どももおっしゃるとおりだと思います、七浦小と忽戸小については26年度に健田小に先に移っていただく。28年度に移っていただくことも考えましたが、先ほどから出ていますように、七浦小と忽戸小の子供の数が非常に少なくなってきていますので、やはり一年でも早く、大きな人数の中で学習あるいは生活をさせた方が良くはないかということで、私ども、また考え直しまして、七浦幼小と忽戸幼小につきましては26年度に健田小学校、私どもの都合で申し上げているようですが、健田小学校が受け入れ可能な状況になりましたら、朝夷小学校もそこへ移って行くというような形ではどうかということで、今日お話しさせていただこうと思っていました。私どもの今の話しを含めて、皆さん方の案と比べて、御議論いただければと思います。

委員長 今、教育長からの話は、最初は二段階方式という案だったわけですが、いろんなことを考えたということで、今の話は七浦小と忽戸小は26年度に先に健田小へと統合してしまうと。朝夷小がその後、予定では28年に統合して一つの小学校になるということだと思います。この件についてどうでしょうか。

委員 2回の統合で生徒に負担がかかることがないようにとすると、今の教育長の話のとおりになると思います。前回の各学校PTAで「2回はいけない。」という意見が結構出ていました。今、校長先生の意見もそういうことなので、そうすると、おのずと今の教育長の話になるかと思いますが。

委員長 では、今出た意見について、何か。

委員 それでは、例えば、1回で4校を統合するという案は。たぶん、現在の3年生が88人、4年生が85人いるということで40人学級以上になってしまうから出来ないということの判断だと思いますが、この人数には特別支援の子の人数が入っているということで、その人数を外した中で、実人数がいくつになるのか。41人か42人が一つの学級で入って授業が出来ないのか。2年間の措置であるのであれば、そういうことも検討としても良いのではないのか。26年に1回で出来るなら、その方が良いという感覚を持ちますが、いかがでし

ようか。

教育長 検討しましたが、健田小は教室がちょっと狭いんですよね。教室の後ろにある可動式のロッカーを動かしたとしても、かなりぎゅう詰めになってくる。あるいは廊下に敷居はありませんので、廊下へ一列出すような形とか。そういうことも可能かと思いますが、法的にというよりも保護者の方とか、子供への負担がどうなるのかというのが、それが一番、頭にあります。それならば28年度まで待って4校一緒ではどうかということですが、そうなってきますと今度は七浦小と忽戸小の子供たちが、もう2年少ない数の中でやらなくてはいけないということもありまして、今の教室の広さとか七浦小と忽戸小の子供たちを早く大きな集団にという思いと妥協すると、先ほどお話ししたような提案内容になってしまうんですけども。

委員 過去に朝夷小、忽戸小、千倉中、七浦小の改築を手掛けてきた経緯から見て、今、委員が言ったように一挙にやる方法としては、当時、朝夷小としては、曳きやということで旧校舎をひいたり、プレハブ教室を借りて、一時そこに入れるとかの方法で何とか新しい学校を建てようということをやってきた経験があります。お金がかかる問題ですが、一挙にやっしまおうということであれば、あえて28年度まで待たずに、私は校庭に2年間だけプレハブでも借りて、そこを借り教室として、その子供は大変ですけども、そういう形で一挙にやっしまおうという方法、目指す方向が分かれば、多少、議員さんや市長さんの協力を得て、他の学校の経費を節減すると言えば良いのではないかという感じがしますが。

委員長 一気にという話が出てきましたが、その辺のところはどうでしょうか。

委員 2年待たずにやるならば、そういう方法もあると。ただ、おとなしいやり方としては、教育長さんが言った、七浦小と忽戸小をそのまま健田小に持って行ってしまおうと、それでも良いのではないかということで最初の教育委員会の案よりもその方が良いかなという感じは個人的にはしております。

委員長 他の案も出て参りましたが、一気に行くこと。それから七浦と忽戸が最初に行くこと。そして28年度に1つになること。我々の見えない、例えば我々が具申をして、それを議会で説明をするわけですが、説明の通らないことがあればまた戻って考えなければならないことになります。だからというのではないですが、財政的な問題。例えば2校をつくった場合の経費の問題。あるいは1校で一気に集まろうとすると、どれだけの予算を取るとか、これは議会を通さないと出来ることではないと思いますので。そうなってくると、いろんな問題が発生してくる。それが教育委員会から出された案だと思います。その範囲以内の中で直せるものを直して、そして、それが議会の中で説明が出来るようにして、賛成が取れるようにしていけないといけない。千倉の議員さんはそれを

承知はしてくれると思いますが、他の議員さんたちもいますので、「何で千倉だけ、どうしてそんなに金を使うんだ。」みたいなことになってしまってもいけませんから、その辺のところも頭に入れて、考えていった方が良いでしょう。

委員 丸山・和田の新校舎つくる予算はどこから捻出されていますか。  
教育長 丸山・和田地区につきましては、南小と南三原小が海拔で言うと15m以下になっています。南三原小が8m、市内で一番低い学校です。南小が12m。和田小が急傾斜地を背負って非常に狭い、あるいは中型バスが踏切を越えて入って行くことも難しいような状況の中にあります。丸小も同じようにやはり古い校舎でありまして、非常に道路も悪い、敷地も狭い、そのような状況の中で建て替えなくてはいけないという状況をそれぞれ4つの学校が持っていて、今回の場合については4校一緒に統合しますので、1校新しく建てるということになっています。

委員 2校案を提案した側の意見として話をしますが、まず、先ほど教育する側からの意見ということで話を伺いました。1校にして2クラスということ強く言っていましたが、教育を受ける側としては大人数の中でも序列というものは出来ずし、人数の大きいところには必ずいじめというもの存在してきます。受ける側としては、きめ細かな教育を受ける。先ほど、切磋琢磨という言葉教育長さんは使っていましたが、2校での切磋琢磨ということではいかがでしょう。なお、1校にする時と2校にする時の地方交付税交付金の絡みもあります。今、4校分もらっているのが1校分になれば減収ということになります。その辺のシミュレーションも出来てのことなんでしょうか。

教育長 確かにおっしゃるとおり、国からの交付金は学校数できますので、学校数が減れば、交付金は減っていきます。それは十分承知の上で、子供たちの学習環境をより良いものにするということで再編計画を進めていますので、それらについてのプラスになる部分もあるし、マイナスになる部分もあるということで精査するのは極めて財政的には厳しいのはありますので、それはつめてはありません。ただ一番考えるのは、子供たちの学習環境を可能性のある、より良いものにしていくということで。単学級2校で切磋琢磨ということですが、具体的な意味がよく分からないんですけど、単学級の学校が2つあって、そこで切磋琢磨するというのは具体的にどういうことが想定できるのか、その辺のお話しを伺いたいと思います。

委員 例えば、先ほどの陸上大会とかありましたが、要するにそういう所に出て行く人数も多くなるわけですね。1校で1人しか出られないところを2校で2人出られるという。その中で子供にチャンスを与えられると私は思いますが。  
教育長 それは切磋琢磨とは言わないかなと思いますが、それともう一つ、人数が多くなればいじめがあるとか、人数が少なくなればいじめはないというのは、そ

これは誤解を招くことだと思しますので。人数が多かろうが少なかろうが、いじめというのは起こり得る問題でありますから、学年2学級になるといじめが起こる心配があるというのは、私から言わせれば根も葉もないことだと思しますので、これははっきりと否定させていただきたいと思します。

委員  
教育長 それではどのような児童像を考えていらっしゃいますか。  
これは私ども各学校に配っていますが、基本方針を3つの柱で出しております。それを受けて各学校で校長が具体的な児童像・生徒像をたててやっております。新しく統合された、2校になるか1校になるか、まだ結論は出ていませんが、新しく再編された学校の校長が具体的な児童像・生徒像をたてて、教育活動を展開していくことになると思します。

委員長 よろしいですか。  
委員 いや。まだ、決まっていないというか、今の。  
委員長 今度の新しい学校の校長先生が具体的なことを決めると。  
委員 今、この時点で4校を1校にするということが。  
委員長 それは、これから。今、教育の内容についておっしゃっていたけど、その時の教育内容を言っているんですか。

委員 今の時点でどう考えているかということ。  
委員長 今の学校の状態のままです。  
委員 先ほど、私、いじめがあるという言い方をしてしまったかもしれませんが、可能性というか、確率的な問題で言った場合に、やはり目が届かなくなった時のことが。

教育長 2学級になれば教員の配当数が2倍以上になるわけです。一人一人目が届くというのは、より多くの教員が目を届かせていますので、私とすれば、職員の数が多ければ多いほど、子供たちにいろんな場面で目が届いていくようになるかと思っています。

委員長 今日は確認をしてしまいたいと思しますが、ここで10分間休憩します。  
(休憩)

委員長 いろいろな意見が出てきました。最初は26年に2校で統一してという話で具体的に言うと、七浦と忽戸が朝夷に行って、朝夷と健田が並立の案が朝夷で出たんですね。その次に出てきた案は26年に2校、七浦と忽戸が健田に先に行って、28年に朝夷がきて1校になるということ。もう一つの意見は、26年に無理してでも、プレハブをつくってでも、1校になってしまうと。四つ目の案として、千倉町P連の案。27年に3校、七浦、忽戸、朝夷を統合し、2校で37年まで行こうという案ですね。この中で方向付けをしておかないと先へと進まないと思しますので、御意見をいただきたいと思します。いろんなメリット・デメリットの発表がありましたし、そういうところも考えてもらいた

いと思いますが、お願いします。

委員 無理してでも、プレハブを建てていただいて、一度に、26年に統合した方が良いのではないかと思います。28年で朝夷が健田に行くとなると、七浦・忽戸・健田で265人、朝夷の94人が後からそこへ統合すると、何と言いますか、大勢の3倍近いところへ行くよりは、無理してでもプレハブでも何でも建てていただいて、一度にやってくれた方が良いのではないかと私はそう思います。

委員長 26年に1校に統合してしまうということですね。他にどうですか。

委員 もう一度、皆さんにお話ししたいのは、千倉町P連の案は今現在でいうと各小学校の父兄の皆さんの意見に近いということ、もう一回言わせていただきます。2校で行きたいというのが、保護者の皆さんの意見に非常に近いということで、皆さん、考えていただきたいなど。その中で教育長から言われた、七浦と忽戸を先に健田と統合していこうという案も私は個人的には良いなと思いますが、それも一つの案として、たぶん各小学校PTA代表の皆さんはこれを持ち帰って、父兄の皆さんに聞いて案をつくらと思います。千倉町P連も同じようにさせていただいて、来週23日にまた会議をもちます。それで、また私たちの案として訂正し、考え直すということで進んでいきますから、ここでどれが良いということは、私は手を上げられないし、小学校の皆さんもそうではないかなと思います。今日の皆さんの意見を聞いていると、「二段階は駄目だよ。」と。最初に出された教育委員会の「26年に3校合併して、28年に4校全部一緒にしよう」と。この案は駄目だよということは、ここでは共通した意見だと思います。二段階は駄目ということは決定しても結構だと私は思いますが、それ以上のことは、たぶん皆さん決められないのではないかと思います。小学校の皆さんの意見を聞いた方がよろしいのではないのでしょうか。

委員長 それではどうぞ。

委員 今日、決めるということは、七浦としては1回で合併というのは良いですが、ここで何年、さっきの話で七浦と忽戸が先に合併という話もありましたけど、これを持ち帰って、またその話を（保護者に）してからではいけないのでしょうか。

委員長 構わないですが、何か意見があったら。

委員 忽戸は2校案できているので、一度で1校にするとか、持ち帰って保護者の意見を聞かないと返事は出来ません。

委員長 では朝夷。

委員 質問ですが、教育長にお聞きします。七浦・忽戸・健田が先に統合した案の場合に幼保の施設に関しては、そのまま朝夷の施設ということで、幼保の案はよろしいのでしょうか。

教育長 現時点では、健田幼稚園の保護者は低いところというお考えはあるようですが、千倉全体、敷地の問題等を考えると提案した朝夷小学校を改修して、幼保一体施設にするのが、私ども今のところはベストの案かなということで考えています。

委員 ありがとうございます。私個人的にも、イエスかノーかの答えを求められていないと思いますので、他の小学校と同様に相談させていただく、相談というのはもちろんPTAもそうなんですけど、地域ですとか、いろんな所といろいろ御相談させていただくことが必要になってくるのかなと現時点では思っております。

委員 健田幼小PTAも26年度からという話がありましたので、今ここで返事は出せないというのが一点あります。とにかく、幼稚園の海拔の問題を言っている方がかなりいましたので、今のままでちょっと。要するに、健田は駄目と言うのであれば、私も保護者に「それは駄目だよ。」と言っても、納得はしてもらえないので、具体的な数字で挙げていただければ。例えば、健田にものをつくった時、いくらぐらいかかるからとか。そういうのがあれば、説明する方とすれば、説明しやすいんですけど。今のこのままで「健田は駄目だ」だけで、そのまま言ったとしても相手には納得はしていただけないと思うので。そういうことが説明出来なければ、この場でというのは、ちょっと。近いうちに学校行事でバザーとかありますので、また本部役員で集まる機会もありますから、まずは本部役員に伺いを立てて、また、それから先に広げていこうかと思っております。

教育長 幼保一体施設、お金の問題じゃないということですね。

委員 要するになぜ朝夷なのかということ。9月3日の健田での説明会の時に、どうして健田が駄目なのかというようなことで、例えば土地がないとかありましたが、校舎後ろの駐車場を仮に使ったとして、そうすると絶対的に運動会の時に駐車場が足りなくなりますが、健田の運動会の時は100mぐらい離れた所に駐車場の予備等で毎年、借りているところもあります。そういうことも含めて、今の説明をそのまま私が保護者にしても、納得はしていただけないと思うので、できれば具体的な数字とか何かで分かりやすく示してもらえれば、それは一つの話しをするきっかけになるかと思うんですけど。

教育長 海拔の面もあると思いますし、敷地の、要するにスペースの問題ですね。そういった面も含めて、私ども、資料が用意できれば用意しますし、あるいは私どもが直接行って説明した方が良ければ、機会があれば説明いたします。

委員長 よろしいですか。

委員 はい。

委員長 今、各PTAの御意見を聞きましたが、もう一遍、持ち帰って、今あること

を話した上で、今、ここでは結論は出せないという話のようです。したがって、一応、今日出た事柄を元にいたしまして、皆さんに諮ってもらおう。ただ、無理なものは無理だということは、今までの説明の中であったものについては、そのように説明をしていただきたいと思います。それが委員の役目ですのでお願いします。こうしたら良いのではないかという案はまた出してもらっても良いかと思います。とりあえず、先ほどから出てきているように、28年に1つの小学校をつくっていくこと。もう一つは2つの学校にして、ずっといくんだという考え方があります。最初に出た、26年に朝夷で、それから、もう一遍、移るとするのは、駄目だという声が非常に強かったように思えますが、それでよろしいですか。では、そういうことで2つの案ですね。2校と1校にまとまるという、このことについては、次の段階で話をするしかないと思いますので、説明会を開くのであれば、新しい説明会を開いて、その時に決めていきたいと思えます。

委員 前の会議の時に、幼稚園を七浦小にということで私、出したんですが。何で朝夷小になったかの説明が一つもないですけれども。七浦小のアンケートの回答が50いくつかあって、その中にもありますが、教育長が総合的に判断とか言って、誤魔化したような感じもありますし。それと、説明会で保護者が何とんでも全く聞き入れる余地がないように感じられたという意見もあります。私はなぜ朝夷なのか、最初から総合的という誤魔化しで、比較していないのではないかと思います。それで、七浦小から「道路が（狭い）」という話があって、教育長は「道路は朝夷が広い。」と言って失笑を受けましたよね。そういうことが議事録は誤りが書いてあって、何かおかしいと思うんですけど。何で朝夷小になったのかというのを。

教育長 七浦では道路の件について聞かれたので、道路について答えたわけですね。例えば、朝夷行政センターが白浜、千倉、丸山、和田を対象に千倉地区につくられました。これについて、白浜、丸山、和田地区からは反対は出ません。なぜかと言うと、一番人口が多い場所につくったから、皆、当然だということで受け入れたわけですね。行政施設というのはそういうものだと思います。一番利用者が多いところに持って行くというのが基本だと思います。道路の件については狭くないですかと言われたから、そういう答えをしたわけですね。それ以上のことをその場で、まだ私どもが説明する範囲のことではないですから。全体案を提示して、意見を伺いに行ったわけですから、それを聞いて答えられるだけ答えて帰ってきたということです。七浦小学校を建てて、確かに勿体ないということは、その通りだと思います。ただ幼保一体施設を一番使う人たちの近くに行政側としては、その施設を持って行くのは、これはもう当然のことだと思います。健田、あるいは朝夷で考えた時に、健田も考えましたが、健田は敷

地面積の関係であきらめざるを得ない。そうすると次に私どもが持っている敷地、あるいは施設を有効的に使えるものは朝夷小ということで、そこを選んだということです。

委員 それは初めて聞いたんですけど。最初に朝夷という案が出た時に全く説明はなかったですね。

教育長 再編を進めていった時に、例えば、次の議題として残っていますが、1校が良いか、2校にするのが良いかといった議論をしている時に、七浦小学校に幼稚園を持ってくればという話で議論を進めていきますと、言葉は悪いですけど、条件闘争みたいになってくるわけですね。七浦に持ってくれば賛成だとか、七浦に持ってくれば良いという話になってくるとまとまらない。私どもはそう考えて、一番基本的な1校にするか2校にするかということに、純粋に、教育的に議論していただいて、それが決まった段階で跡地をどうするか、そういう議論になってくるわけです。最初の入口の段階から七浦小学校を幼稚園に使うべきだという、そういう議論になってくると、これは收拾がつかないのではないかという判断で私どもはお答えもしませんでしたし、私の方からこれまでも話してきませんでした。

委員 最初に朝夷小になった理由というのを説明していれば、ある程度、皆、納得はいくと思いますが、それを今、初めて言ったのでは、ちょっと手遅れではないですかね。教育長が考えるには、本筋からというようなことですけど。それと、違う質問ですけど、幼保一体というのは縦割り行政でやっているところは少ないと思いますが、その辺は大丈夫なんですか。

教育長 委員がお勤めの頃とちょっと状況が違ってきていますので。幼保一体についても教育委員会がやるか、あるいは保健福祉部がやるか。どちらにしても、一体の施設の管理とか運営とか、そういうものを一元的にやっていかなくてはいけないということで今、調整しています。

委員長 よろしいですか。

委員 はい。

委員 PTAの方々の意見を聞いていると、個々のケースでいろいろ違うような気がするんですね。例えば、健田小の場合は統合という部分に関しては、私が説明会を聞いた中ではそんなに反対はなくて、幼稚園のことに関して、今、教育長さんが意見を言ったような、こういう敷地が少ないからだとか、お金の問題だとか、そういうことを説明してもらって納得していただく方法論を取らないと。具体的に個々のケースでやってもらわないと納得していただけないと思います。例えば、七浦小の場合は2回ではいけないから、1回でやってもらいたいということの中で、こういう具体的なことで、どうですかということをやっているかないと。今のままで合併がどうというのではなくて、七浦と忽戸の保護

者に 1 回でやる案はどうかというような聞き方をすれば、それだったら良いですよという意見になるかもしれない。それを今のまま、再編でこうやって言っていますが、賛成しますか、しませんか。では、いつまでたっても意見が集約出来ない気がするので、個々のケースで、健田の場合なら健田小学校に幼保も一体、小学校も一体で一つの千倉の施設をつくってもらいたいという部分が意見を占めていると思うんです。その意見に対して、こういう理由で駄目で朝夷小にもっていきます。それで賛成していただきたいと。具体的にお金ですとか、敷地ですとか、そういうことを提示した中での説明があれば、聞いていただける部分があるのではないかという気がします。

教育長 説明が足りないですけど、健田幼小の説明会の時にも、健田幼保一体の施設は無理だと話したんですが。

委員 「無理だ。」と言うだけですよね。説明会の時も、はっきり言って、今日みたいな平行線でした。説明会後のアンケートも、例えば「先日、健田小の説明会に参加しましたが、無意味だと思いました。案に書かれた文書の説明をしてもらいましたが、決まったことの説明なんですよ。全く聞く耳を持たない感じの説明会はおかしくないですか。質疑応答しても答えは決まっているんですよ。」というような感じであれば、先ほど委員長が言いました、我々、委員には説明責任があつて、納得させる責任があるかもしれないんですけど、これでは、健田の保護者を集めて言ったとしても、今度は私が保護者から「何も変わってないじゃないか。」と。何で駄目なのか、具体的なものが、数字なり何なり、それが正しい数字であれば、納得していただける材料になるかなと思いますけど。今日のこれまでの会議で、駄目だ駄目だって、どうして駄目なんだと。敷地だとか、何とかありますけど、健田の保護者はいろいろ「じゃあ、こうしたら良いんじゃないの。ああすれば良いんじゃないの。」というような意見があるんですよ。だから、そういうのが全て駄目というのであれば、具体的に数字等で示していただけると、私も非常に説明がしやすい。

委員 言っていることも分かるんだけど、健田の用地が狭いとか、そういう返答では困るんだということであるならば、健田幼小PTAとして、こういうふうにしたら出来るのではないですかと提案するのも一つの道かなと思うんだけど。ただ出てきた問題に対して批判的にものを見て、ものを言うだけではなくて、自分たちはこういうふうやって、これを解決出来ますよという、そういった提案も必要じゃないかなと私は思います。

委員 それでは、とりあえず本部役員でそういう話はしてみます。

委員 それが受け入れられるか、受け入れられないかということは、また次の会議の問題だから。

委員 ただ先ほど、検討委員は説明責任があるということがあったので。少なくとも

も今のままだと平行線で、自分が同じ説明をしても「何をやっているんだ。」と言われてしまうと思うので。それは説明的にも、もう少し具体的に何かあればなと思います。今、委員が言ったような健田幼小PTAとして提案することについては相談してみます。

教育長 私どもの立場とすると、七浦小・忽戸小に説明に行き、「これは朝夷に行くのではなくて1回で健田に。」とそういう話が出た時に、本心からすれば、言いたいんですよね。「そのとおりですね。そうします。」と。ただ、それは言えない立場なんです。なぜかと言うと、皆さんのところに協議を委ねていますので、この会議で話す前にそれぞれの説明会に行って、皆さんに提案したものと違うものを話すということは、私どもの立場としては出来ません。ですから、各PTAでいろんな意見が出て、改めて私どもが修正したものを提案するのは、皆さん方にまず出してから。それからでないと、提案出来ないという立場であること。もう一つは、この場でいろんな意見をいただいて、それで私どもがいろんな資料を出して、再度持ち帰って、議論を詰めていただければ大変ありがたいと思いますので、全て持ち帰らないとわかりませんということではなくて、会長は会長なりの立場で御意見をいただいて、方向性もある程度見出して、「じゃあ、こういうことはどうなっているんだ。」と私どもに指摘していただいて、それで持ち帰って、話し合っていた方が、より議論が詰まってくると思いますので、そういう方向でぜひお願いしたいと思います。

委員 それはそれで。数値的なものを出していただければ、私は会員に説明しやすいです。ただ、今の段階だと、先ほど委員長が言った、検討委員には説明責任があるということであれば、今日のままだとそれはなかなか説明が難しいので、具体的な数字を挙げていただければ、それはこうだよと説明も出来ますし、先ほど、委員の言ってくれたような健田幼小PTAとしての提案もやってみたいと思いますので。

委員長 今、出てきた、幼稚園と保育所の一体化のことについて。もう一つ、きちんとしておいた方が良くは思っていました、主になるのは小学校が1校になるか2校になるかという議論が続いてきたから、その問題まではいかなかった。本当は小学校と幼保はセットになっているはずだったんだけど、そこまでいかなかった。時間も来まして、ここで結論を出すというわけにはいきませんので、今まで出てきた具体的な話。小学校を1校にする、あるいは2校にするということの資料等の説明もあったわけですから、先ほど私が言ったのはそういう意味で、説明をしていただきたいというのはそういうこととさせていただきます。それでは、一応、この会議は閉めたいと思います。何かありますか。

委員 ちょっといいですか。皆さん、地域に持ち帰って、また話を来ますという意見が多かったんですが、1校にするか2校にするかということは、最初か

らわかっていることで、行政側としてみれば、教育長さんの話をお聞きする限りでは1校にしたら良いのではないかというふうに受け取れます。PTAの方たちは2校体制でいったら良いのではないかというようなニュアンスの主張が多いように思われます。これを持ち帰って、話をしたところで、そこにそれらを説得して曲げるだけの何かがない限り、またしても平行線ではないかと思えます。子供たちの教育という部分は第一に考えるべきものだと思いますが、行政としてみれば、財政の問題もあろうかと思えますし、あらゆる面から、市としてはこういう考えなんだというものを出示していただかないと何回やっても平行線ではないかなと思うので、そういったところもお考えになっていただけたら良いのではないかと思います。

教育長 私どもとしては、先ほど申し上げたように教育環境の面から千倉地区は4校で1校がベストだということで提案しております。PTAから出てきました2校案の根拠は、先ほど聞きましたが、隣の白浜も単学級で1校ではないかということが根拠だったと思いますが、10年・20年先まで1学級でいって、どんどん減って行くわけですね。そういう環境の中で小学校教育をやっていくということがPTAの方々の総意としてあれば、また私どもと話し合わなくてはいけないと思いますが、その辺のところを皆さん方の立場で協議していただいて、単学級で、2校体制で行くんだと、その理由は何だということで、問い詰めるのもどうかと思い、その辺で留めたんですが。もし、2校案でやっていくとしたら、こちらにいる校長先生方もおおむねは学年2学級の学校が良いという話だったと思います。あとは、区長さん方、学識経験の方々も1校体制ということで最初はまとまったと思いますので、それを覆すだけの2校案の根拠を示していただければ、大変ありがたいと思えますし、またそうしていただかなければ、私どもの方も1校案をあきらめて、2校案でいきましょうということにはなりませんので。その辺のところはぜひ御議論いただきたいと思えます。

委員 すみません。私の説明が足らなかったと思いますが、白浜というのは私がいった言葉であって、実は2校にするというのは、まずは七浦と忽戸が複式になると前から言われているので、それに対応するにはどうしたらいいかということで、こんな案にしてみました。決して白浜のことだけではなくて、それは私の個人的な意見。ただ、申し訳ないですが、聞いていて、私たちの意見を聞こうという感じが私はしないんですけど。

教育長 いや、聞いていますし、私どもの方は1校がベストだということで申し上げていますので。ですから、今の委員の話ですと、七浦と忽戸の子供たちがということでしたら、別に1校案でも2校案でも、早くに、例えば健田と一緒になるとか、その問題は解決できるわけですよ。

委員 はい、そうですね。ですから、もう一回、持ち帰って、教育長が言われた、

七浦・忽戸が健田と統合するという案は一つ良い案ではないかなと思いますし、それはたぶん検討していただろうと思います。実は23日に教育委員会と千倉町P連で話し合いをしますので、市の考えとか保護者の考えを持って、話し合いをして、たぶん何回か話し合いをして、案として皆さんに提案出来るかなと考えています。

教育長　　私は聞かないということではなく、2校案なら2校案で納得のいく理由があれば、私どももそれは受け入れるということですね。その辺は誤解しないでいただきたいと思います。

委員長　　今日は今言ったような形で、終わりにしますが、次の段階では何かの形で見通しづけをしなくてはいけないと思います。ただ、今やっている、平行線みたいですが、説明会とかそういうものが開けられればいいですが。それでは、議案第2号「第5回会議開催の日程について」事務局から何かありましたら。

事務局　　議案第2号の第5回の会議日程でございますが、出来ましたら来月ぐらいの内にやれればと思っておりますが、これにつきましては執行部、委員長・副委員長等の日程、各学校等の日程を確認させていただきまして、日程は調整させていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

委員長　　よろしいですか。それでは、後日、御連絡するということでよろしくお願ひします。それでは、第4回千倉地区学校再編検討委員会を閉会します。

(閉会)